

<b>国際経済論</b>		<b>講義</b>	<b>教授 田中 秀臣</b>	
<b>科目カテゴリー</b>	<b>国際ビジネスコースの選択必修科目, 会計ファイナンスコースの専門選択科目, 経営・経済コースの専門選択科目</b>	<b>科目ナンバリング</b>	<b>23122201</b>	

### 1. 授業のねらい・概要

経済のグローバル化がいわれて久しい。また私たちの日常生活でも世界とのつながりは、想像以上に深まっている。例えばコンビニエンスストアで販売されているお弁当は、その具材の由来を尋ねてみると、日本産のものはほとんどなく、アジア、中近東、南アメリカ各地で育てられ、そこで加工されたもので占められている。またインターネットを利用すれば、容易に世界中の情報がリアルタイムで利用でき、そのスピードと利便性は日進月歩である。

私たちのこのような生活の変化は、しかし必ずしも世界に対する確かな視点を養っているとはいえない。例えば、世界経済における貧困問題についてはどうだろうか？ただ単に新聞やテレビで耳にする以上に、そもそも世界のどこで、何が原因で貧困が生まれているのか、どのような対策が必要とされているのか、またその対策の効果について正確な知識と理解を私たちは有しているだろうか？

この講義では、現在の国際経済を取り巻く主要な経済問題について、その包括的な見取り図を提供することを意図している。

### 2. 授業の進め方

以下にあげた教科書を利用して、特に基本的な事項を選択して、初心者で予備知識がまったくなくても現実の国際経済の状況への理解ができるように順を追って講義を進める。適時、ビデオ教材やオンラインの資料などを利用して視覚的に現在の国際経済の動向を紹介することも試みたい。また頻繁にその時々起こった時事的な話題を取り入れて講義を展開するので、授業計画の順番はその都度、柔軟に入れ替わるだろう。またテーマも同様に大きく修正していき、現実の国際経済の課題を解説していく。

### 3. 授業計画

1. 世界経済の輪郭と日本経済	9. イギリス、ユーロ圏とEUの経済動向
2. 国際貿易がなぜ重要なのか	10. 新興国経済の展望
3. 比較優位と貿易の自由化—理論と実際—	11. エネルギー問題と地球環境問題
4. 国際金融と為替レートの基礎を学ぶ	12. 移民と難民の経済学
5. 国際貿易と貿易政策、米中対立などの事例分析	13. ヘクシャー・オリーソン・モデルとメリッツモデル
6. 新型コロナ以後、ウクライナ戦争の経済的影響	14. 経常収支をめぐる諸問題
7. アメリカ経済の動向	15. 国際貿易の短期的影響と長期的影響
8. 中国経済の動向	

### 4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業の前に指定された参考資料を各自よく学んでおくこと。目安として1時間程度の学習時間が必要。

### 5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施後、レポートについては提出後に、標準的なレポートの書き方、求められたポイント、高得点のためのコツなどを解説する。

### 6. 授業における学修の到達目標

世界経済事情について講義の各テーマについて、一通りの理解と習得ができていること。

## 7. 成績評価の方法・基準

授業中の取り組む姿勢を重視する（50%）。期末には試験またはレポートを提出させて総合的に評価（50%）していく。

## 8. テキスト・参考文献

特に指定はない。ただし以下の書籍を講義ではしばしば利用する。

伊藤万里・田中鮎夢『現実からまなぶ国際経済学』（有斐閣）

宮崎勇・田谷禎三『世界経済図説＜第四版＞』（岩波新書）

## 9. 受講上の留意事項

特にないが、熱意をもって講義を理解しようとする姿勢が重要である。また現実の経済の話題に常に注意を払ってほしい。疑問や議論があれば積極的に質問してほしい。

## 10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

## 11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。